

## 色んな価値観に触れるのが好き

語り手 豊田由実衣（高校十四期生 APUアジア太平洋学部）

聞き手 乾 莉央

\*

### 当時の学校生活

―立守に来たのはいつぶりですか？

三年ぶりに来ました。めっちゃ懐かしいです。

―変わったと思うところはありますか。

なんかさつきちよつと探検させてもらったけど、中学めっちゃ変わったなと思って。後ろのなんかロッカーとか。私、中入やねんけど、全然見たことない感じになってて。

―私が中学三年生の時に教室の工事が始まって、めっちゃ変わっていききました。

いや、でもあれはいいお金の使い方していると思う。めっちゃ変わっててすごい。なんかこの間APU来てた子がいて聞いていたら、「めっちゃ今自由になってます。」みたいな。

―髪の毛染めるとかピアス開けるとかが良くなりました。

さつきバス（学校前）から降りてきた時にすれ違った子が髪の毛の色が赤色だったからすごいなって（笑）。私が学校にいた時と全然違う。

―通っていた頃はどんな感じでしたか？

髪の毛は染めたらいけなかったし、あのー免許（運転免許）とかも取りにいけなくて、厳しかった。私、女子ハンド部入っていたから、中学の時は結構全中行ったりとか、近畿行ったりするぐらい黄金期やってんだけど（笑）。毎日部活やって、一ヶ月休みなとか全然あってめっちゃ

や厳しかったけど、それがあから今に活かされていることもある。けどきつかったっていう思い出の方がやっぱ強くて、ネガティブやった経験があるから、今って変わってきているやん。結構みんな自由になんかのびのび育った方が私はいんちゃうかなって思ってる。

―文武両道を目指していたって聞いたんですけど、工夫したこととか、しんどかったこととかありますか。

そうやなーなんやろ。高校はめちゃくちゃ進路に迷ってて、でも留学経験とか積める方がいいかなと思って、迷った末のAPUやったんやけど。高校はノート取るとかよりも、教科書見まくってた気がする。あとはとりあえず提出物は期限内に出すっていうのは徹底してた。

\*

### 大学生活

―いつ頃APUに行こうと決めたんですか。

最後にAPU行こうって決めたのは二年生のこれぐらい（夏休み）の時期やったかな。

―なぜAPUに行こうと思ったんですか？

色んな価値観に触れるのが好きというか、全然自分と違うバックグラウンドの人の話を聞くのが好きで。最近多いねんけど、今は柔軟性に結構かけやすくなるからこそ、色んな人の話を聞くべきやなって思ってる。英語のレベルをマシにしたいとか、海外の友達作るとか、伸ばしたいことが一番できる大学やったから、APUにしたっていう感じ。みんな立大（立命館大学）に行くから、おもんないと思っちゃって。附属校の子って、十年間の付き合いになるわけ。そんなのに固執するタイプじゃなくて、ガンガン自分の周りの人変えてきたっていうタイプだった。ほんまに気の合う人とかは、離れたとしても連絡取れるし、何年か

後に連絡しても、変な関係にならへんからっていうので、三年単位で絶対に周りの人をゴロつと変えてきた。部活もほとんどの人がそのまま競技を続ける中で、自分は続けずに別の道を進むことに決めてん。別れは多いねんけど、その分、いや大丈夫やったやんって言えてる自分ていたっていうのがあるから。そういうのも含めて、大分（APU）に行ったらし今もずっと続けてるって感じかな。自分がモットーにしてるのは、ほんまに多くの人と関わるために、スパン、こう大体決めてとか、違うなと思ったら次行くとかっていうのを、誰に引き止められようが、自分がそう思ったらそこ行くとっていうのをやってきたっていう感じ。

—大学で関わってきた人で印象に残った人とかいますか。

去年交換留学でフィンランド行った時のチューターさんの人が結構印象的やった。外国の人って、言わないと伝わらないじゃんみたいな文化が強くて。シェアハウスで共同生活をしていた時に家事分担がうまくいなくてストレスが溜まってしまった時にその人（チューターさん）に連絡したら、「言うべきやとは思っけど、言って変わるかどうかは別やし、僕も同じ状況になってたんだよね。でもそんな時に思ってたのは、人って成熟する時期がそれぞれ違ってこの人はまだ成熟できてないんだなとか、気づいてないんだなみたいなふうに思ったら、ちよつとは気持ち楽になるよ」みたいなのが返ってきたのね。海外の人からこういう価値観得るんやっていうので、印象的やった。

—元シリア難民の方からも影響を受けたって聞いたんですけど。

あれは原点やと思う。難民ボートの話。ボートも密輸業者から借りてきたやつやから、取り締まりに見つかったら終わりやし、その人が港から出発した時、二隻で出たんやって。でも一隻は港につかんかったって。その人のボートも、穴が開いてめっちゃ水入ってきてもう沈みかけ

てやばいと思った時に、クルーズ船に助けられてたまたま生きられただけ。でも沈みそうってなった時に、泣き叫ぶ人とか、祈りあげる人とかカオスな状況やったって言われて、自分たちって正直そんな命の危険を感じるほど、追いつめられることないと思う。でも今の時間とか、一秒一秒、そういう時を過ごしている人がいるんやって感じた。今いる場所のありがたみとか感謝の気持ちが湧くし、誰かに貢献しようって思えた。ジャイカとかって聞いたことある？

—聞いたことないです。

発展途上国に青年海外協力隊っていつて、そういうのに国際協力行きたい人が多い。私も貢献したいと思ったけど、ちゃんと人のためになるものを作って、売って、そのお金でまた誰かのために投資をしてあげるっていうサイクルがやっぱり社会の中で一番大事やなって思ったから、普通に民間の稼ぐ営利目的の会社に就職するっていうのを決めた。

\*

#### 留学経験

—大学で留学とかってあまりできないんですか。

APUじゃない別の大学の子から聞いたけど、もう行く（留学する）時間なかったとか、卒業単位がやばくてみたいな。大学生って勉強意欲とか受験終えているからさ、燃え尽きちゃってる人も多いし、飲み会とか大事な経験やと思うけど、飲み会をしているぐらいやったらんかやれることあるよねっ、て私は結構思うタイプ。責任を持つとか今ないからこそ純粹にいろんなものにまだまだなれる。正直勝手に諦めてるだけやし、後悔すると思う。だから早い間に行くっていうのが、価値観の広がり方も全然違うと思う。私APU行くときにめっちゃ馬鹿にされてん。そんな僻地に行つて、島流しみたいって言われたりとかしたけど、それ

を言われたからっていうのもあるけど、こいつらに負けるような経験の積み方を絶対したくないと思って行つた。だから留学したりとか、団体に入ったりとか、色々やったかな。就活したら、あなたは何してきたんですか？ とか、その経験を得てどういう価値観を持つようになったんですか？ とかって聞かれるねん。それでやっぱり人間性がわかるし、大事なんやけど、APU以外の大学の友達とか聞いたら、喋れる話題とかエピソードが全然ないって。私は喋りたいこといっぱいあったんよ。

正直、何喋ろうかなみたいな。話がもう尽きひんぐらいあった。だから、絶対APUでよかったなっていうのは思つた。APハウスに住んでいたら、ネパール人とかインドネシアの子とか居て、そういう子たちの作ってくれたご飯を分けてもらったりとか、英語を教えてくれたりとか、誰々の国ではどんな感じなの？ って聞いたりとかして、そういう話の方がやっぱり為になると思うし、絶対そっちの方が価値あると思うから、よかったなと。自分は何を指すのか、何が好きなのかっていうのが明確にあるからこそそうなるから、大事やったかなと思うし、ほんまに他の大学では経験できないことを経験できる大学やと思う。アイデンティティがさ、結構多様やから、そういう子達は居心地いいって言ってた。周りと一緒に安心してみたい人にとってはちょっと居にくい場所だけど、違うことをすればするほどとか、何か頑張ろうとすればするほどみんなが応援してくれる大学かな。由谷先生ってわかる？

—はい。今もいます。

夏休みの三者面談の時にAPUってそんなやばいんですか？ って言ったら、めっちゃ笑われて（笑）。「いやだって、ほとんどの子が大学生になっても、一応家から通うわけやん。でもAPU行ったら必然的に絶対に一人暮らしになるで。いっぱい海外の人がいるわけやん。立大（立

命館大学）行ったら、そんなことないで。結構国際色豊かではあるけど、でもそんな全然割合違うし。そんなん覚悟ないと行かれへん場所やで。今までここから送り出してきた卒業生でAPUに行つた子とかは、やっぱり行くってなつた瞬間から肝座ってるなっていう子が多かったし。そんなやばい大学じゃないよ。でも、立命館大学に行くよりも覚悟がいるよ。」って言われて、でももう行くのは決まっていたから、頑張りますみたいな感じやったな。それで三年六か月ぶりに帰ってきた

（笑）。

—ずっと向こう（APハウス）にいたんですか？  
うん。めっちゃ忙しかった。休みは基本的に日本に居らんかったんよ。一年の時はタイとマレーシアに研修。寮長（APハウスの寮長）にそのあとすぐなつたから、寮長の仕事始まるってなつてもう帰る暇がなかった。二年生の夏はカナダ短期留学で一ヶ月行つて、三年生も長期休みは留学に行つた。今年が、最初で最後のめっちゃゆくりしてる時。しかも学生団体に入つて、結構バチバチにやってたから、ふと振り返った時にマジで全然休みなかったなと思って、このまんま大人になって働くから休みないわけよ。だからもう自分のために、滋賀めっちゃ久しぶりに来た。

—守山とかも結構変わってますか？

ニトリが。

—そうなんです。ちょっと前色々できて。

それこそ文化祭の買い出しとか良いやん。私、平和堂まで歩いたりしてたのに、めっちゃ楽やん（笑）。

\*

高校の文化祭

―体育祭とか文化祭とかどんな感じやったんですか？

体育祭はなんやったかな。なんか文化祭の方が思い出残ってて。私、三年生の時ってコロナやってん。だから最初、十月ぐらいやったのが結局、卒業式の二週間前にやったんよ。だから、みんなやる気なくなるし、しかも演技の上手い子とか他のクラスにいて、もう大体このクラスが一位とるやろうなみたいになってて、なおさらみんなやる気なくしてて。

今ってさ、文系、理系、混合クラスとかってある？

―え、混合クラスはないです。

ほんまに私の時期だけ、一瞬できた。七組が半分理系、半分文系で、だから授業受ける時とかも少人数クラスなんやんか。理系の子とかさ、全然喋ったことないまま学級委員やってて、マジでどうしたらいいのみたいな。市民ホール劇、一年生の時からあってん。

―一年から劇なんですか？

そう、一年から劇やった。教室劇やってそうそう。一年も三年も脚本したけど、マジでさ、めっちゃ時間かかるんよ。で、しかも脚本係って、みんな大体やりたがらへんからさ、結局、両方とも一人でやったんやんか。

三年は、劇場版を三十分やったんよ。わざわざレンタル借りてきた。しかもこの労力自分しか知らんからしんどかった。でもコロナでダメになっちゃったらしゃあないけど、他の人たちのやる気とかで台無しにされるのとか自分が一番嫌やったから、なんかもう私こんだけ頑張ったから、みんな頑張んなよ、みたいな。とにかく言うより、行動で見せるみたいなのをやった。この人はこれしてみたいに全部書いてやってほしいこと説明した。監督の子、プロジェクト長の子もいたけど、私がその

勢いやったから乗ってこれへん、強すぎたと思う。正直、その子に申し訳ないなって今は思うけど、もうその当時はもう、自分も必死やったから。そしたら総合で三位やった。学年主任の先生めっちゃ褒めてくれたりしてたし、なんか最後のいいクラスやったねっていうのとか言ってもらえたりしたし、あと卒業式はその組の代表者が取りに行くんやんか。選んでもらったりとかして、どのクラスよりもみんなで一緒にいるっていう時間が少ないクラスやったから、もうなんかみんな幸福みたいな。自分もそうやったし、生徒会の子とかに、「え、やんの？」「無理やでもう、みたいなのを、めっちゃ頑張って考えてくれてるのに、そういう子たちは愚痴をこぼしたりとかあったけど、とりあえず自分が頑張っているってきてる人たちを仲間にして頑張るみたいなやり方が結構できた。なんか大学入ってからうまくいったりとか、すごいみんなが満足感を持ってよかったなこのチームとか、ここにいたらすごい安心できたなっていうチームが私は好きで、そのチームを作るのが多分得意かな。でそういうのができひんなって思った瞬間、辞めちゃうとか、別の方法を取ってもうなんかそれを目指さへんみたいなことをする時ももちろんあったけど、どういうふうにしたいとか、どういう目標に持っていきたいかっていう経験にはなつたと思って、めっちゃ文化祭は思い出がある。監督と演出と音響と脚本。なんか小道具とかも全然足りひんかったから、色々借りたりとかしたし、もう全て自分が目通ってないとか、自分がわからへん作業とか、どの仕事に関しても一切ないような状況になるぐらいやって、アクションのシーンとかはそういうのを見せるのが上手い子がやってくれていたけど、監督とか全部頑張ってた。結構しんどいなと思うんだけど、一種の自信もあるから、そういう経験を積めたのは、そういう行事とかの積み重ねがあったからかなってのもす

ごい思った。大学四年生になっても芽が出ないこともあるし、でも出てきたこともあるから、これから来年とか働き始めるけど、うまくいくことばっかじゃないよねと思いつながらやるんやろうなって思う。ずっとね、変わらんとと思う。中学、高校、大学、なんか大学生になったらすごいキラキラみたいなイメージ絶対あると思うんやけど、でも勉強しなアカんからさ、色んな友達といろんなところ行って、遊びに行つてとか、飲みに行つてとかが絶対いいわと思うんやったら別にそれしたらいいと思うし、楽しいと思う。ただほんまにそれをして自分が最後、後悔しないのかとか、自分の大学でこれはやりたいなと思つてることが達成せんまま終わっちゃうわなとか、そういうのだけちよつと考えれば、あとはなんでもやつてみたらいいと思う。こんなんでいいんかな(笑)。これ何人もやつてるの？

ーいや一人です。

なんか何人もおるんかなと思つて、めっちゃなんかごめんと思いつながら(笑)。

ー全然大丈夫です(笑)。ありがとうございました。

### 【感想】

今回の聞き書きでは、高校、大学生活のことについて主に聞いたけれど、できるだけ多くの経験をすることや、自分のやりたいことに挑戦する姿勢が大切だと学びました。話を聞く中で、語り手の前向きな生き方に刺激を受け、自分も積極的に行動していきたいと感じました。



右：語り手 豊田由実衣さん

左：聞き手 乾 莉央